

張 萃茵

ZHANG Cuiyin



五感の森ギャラリー

アクリル、木

五感の森ギャラリー

1. 研究背景

コロナ禍で、外出自粛のため、幼児の外遊びが足りない状況が続いた。特に自然が豊かでない都心で育てられている幼児にとって、自然遊びで五感と身体能力を鍛える時間が少なくなっている。

各種アンケート調査でも、コロナ禍は明らかに外遊びに影響を及ぼしていた。一般的に、3～6歳の子どもは五感で「形」「素材」「大きさ」「色」を区別し、自然とふれあいながら想像力が育まれる時期と言われている。

よって、自然が豊かでない都心でも、幼児の五感を発達させる遊びが必要となっている。

2. 幼稚園での現地観察

実際的な状況を確認するため、自然が豊かな町田自然幼稚園と都心のベリンダ保育園とを交互に訪れ、幼児たちの自然遊びの差を観察した。保育施設の周りの環境について、地形の複雑さ、緑の広さ、設置された遊び道具の種類が多さという点では、町田自然幼稚園の方が優れている。幼児たちの自然遊びについても、遊びから育まれる身体能力、自然物でDIY制作能力、自然の音を聴くことや自然物の匂いを嗅ぐことも、町田自然幼稚園の子どもたちが一層活発なようだ。しかし、都心のベリンダ保育園の周りにも散歩で訪れる公園は多く、そこで出会う自然物(葉っぱ、木の実、花、枝など)は多く、これをより活かした遊具の計画を考察した。

3. 最終制作物

ベリンダ保育園と同じく都心で育てられている子どもたちの自然遊びの豊かさのために、「五感の森ギャラリー」という室内遊具を作った。本作はお散歩で拾ってきた自然物を園内でより観察し、色々な遊びができる遊具である。

基本的な構成は、直角パネルから出来た迷路で、子どもたちと保育側がお散歩で拾ってきた自然物をパネルに飾り、子どもたちが様々な五感体験や身体活動が行える。

合計八枚のパネルが二枚ずつで、四つの直角パネルセットとなっている。違ったパネルには違った遊び要素が含まれている。子どもたちは「上から自然物がぶらさがった穴を通り抜ける」、「クランプで固定した自然物を観察する、触る、嗅ぐ」、「穴がある蓋で挟んだ自然物の部分を観察する、触る」、「自然物が入っている円盤を回して音を聴く」、「異なる鏡で自然物を飾ったり観察したりする」、「広い黒板に思いっきり描ける」などのことが楽しめる。保育側でも、組み合わせを変えたり、物の置き換えによって工夫することもできる。本作は都心の保育環境においても、郊外に負けないぐらい、自然物で豊かに遊べることを提案し、都心の幼児たちの五感や身体発達に良い影響を与えることを望んでいる。